

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590800169		
法人名	サンキ・ウエルビ株式会社		
事業所名	サンキ・ウエルビ グループホーム岩国		
所在地	山口県岩国市牛野谷町2丁目16-32		
自己評価作成日	平成25年10月31日	評価結果市町受理日	平成26年6月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成25年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近年、全国で多発している自然災害等の非常事態への対応能力を強化するために、地区民生委員の協力の下、防災リーダー育成のための研修を毎月実施することで、職員の防災意識の向上に努めています。
入居されている利用者様に対しては、一人一人の個性を尊重して、その人の生活スタイルやペースに合った生活が継続できるように支援を行うと共に、身体機能、精神機能の低下を予防するための運動やレクリエーション活動の支援に力を入れています。利用者の要介護度が高くなったり、終末期が近くなった場合には、ご家族や主治医と十分に相談をした上で、可能な限りホームでの生活継続を支援し、ご家族の承諾があれば看取り介護まで行える態勢を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の一員として、地域の溝掃除に職員が参加されたり、2つの地区の文化祭に、利用者と職員が協力して作成された花瓶敷きやたわしなどの手編み小物を出展され参加されたり、盆踊りへの参加など、地域の行事に積極的に参加されて交流しておられます。運営推進会議では、意見や提案が活発に出され、災害対策として、毎月1回防災リーダー研修を実施されるなど地域との協力体制の構築につながっておられます。事業所主催の夏祭りでは地域住民が企画運営委員のメンバーとして、チラシ作成から配布、机や椅子の準備、テント設置、後片付けまで協力しておられるなど、地域との連携強化を図っておられます。当日は子供マジックショー、コンサート、ボランティアによるフラダンスや琴演奏、かき氷やうどん、すし、焼き鳥などの出店に協力しておられ、地域住民、利用者、家族、職員と一緒に楽しむ支援をされています。調理専門の職員を配置され、ケアの充実を図ると共に、食事が楽しみなものになるよう支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿って、利用者がその人らしく生活できるように、毎日朝の申し送り時に理念の唱和を行うことで、実践への意識を高めています。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を、各ユニットに掲示している。毎日朝の申し送り時に理念を唱和して、共有し、利用者がその人らしく生き生きとした笑顔の絶えない生活を支援するケアを意識して、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会活動、地域の行事に参加することで、地域の人との交流を深めることができています。また、地域の民生委員や福祉委員の面会もあり、地域との関わりが途絶えないように支援しています。	自治会に加入し、地域の溝掃除に職員が参加している。地域の盆踊りに参加したり、2地区の文化祭に利用者と職員が協力して作成した花瓶敷きやたわしなどの手編みの小物を出展して参加して交流している。事業所主催の夏祭りは、地域住民が企画運営委員として参加し、チラシの配布や机や椅子の準備、トラックの配車、テント設営、後片付けまで協力している。当日は子供のマジックショー、マウンテンマウスコンサート、ボランティアによるフラダンス、琴の演奏、ひょっとこ踊り、出店(やきとり、うどん、寿し、かき氷)など利用者と地域住民が一緒になって楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から介護に関する相談を受けた際には、懇切丁寧に説明を行い、日頃から認知症介護についての理解者が増えるように努めています。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義について、職員全員が理解し、真摯に取り組んでいます。自己評価は職員全員で行い、より良いサービスが提供できるように努めています。	管理者や職員は評価の意義を理解し、職員全員で自己評価に取り組んでいる。地域との相互関係のもとで良いケアができるという気づきがあり、事業所と地域とのつきあいの大切さを再認識し、日々の挨拶を大切にするなど取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、地域の方、利用者の家族、行政担当者から意見を頂き、職場会議で話し合いを行い、サービスの質の向上を目指しています。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況、外部評価への取り組みなどを報告し、意見交換している。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	・会議の活かし方の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を活用し、市とは常に連携を図っており、疑問や問題が生じたときは、相談、助言、情報提供を受けながら、サービスの質の向上に努めています。	市担当者とは運営推進会議の他、管理者が市の介護保険計画策定委員会等の会議時に出席した時に情報交換等を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の現任研修において、身体拘束の意味や具体的内容について職員全員が学習しています。毎月のカンファレンスで、日頃のケアについて改善することと、身体拘束をしないケアの実践に努めています。	内部研修で「身体拘束の排除と虐待防止について」職員全員が学習し、毎月のカンファレンスでも、繰り返し話し合っている。玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現任研修において、高齢者虐待の意味や発生原因について学習しています。常に利用者の様子や身体観察を行い、職員間で不適切な言葉や行為がないかを互いに注意しあっています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現任研修において、権利擁護や成年後見制度について学習しています。利用者の家族から相談を受けた場合は、懇切丁寧に説明や助言を行うように努めています。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス利用開始の際、十分に時間を取って本人及びご家族の理解は元より、契約内容、利用料金について丁寧に分かりやすく説明を行い、納得して頂いた上で契約を結ぶようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には運営推進会議に出席して頂き、外部者へ要望や意見を表せる機会を設けています。また、電話での問い合わせや訪問時等に、しっかりコミュニケーションを図るようにして、話しやすい雰囲気作りを心掛けています。	家族の面会時や電話、運営推進会議の出席時、行事参加時などで、家族の意見や要望を聞いている。苦情の受付体制や処理手続きを定め、第三者委員、外部機関を明示して、周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、全体会議及びユニット会議を開催し、職員からの提案や意見交換を行い、それらの意見を運営に反映できるように努めています。また、議事録を作成して、職員全員で情報を共有できるようにしています。	管理者は月1回のユニット会議や全体会議、年2回の面接で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。調理担当職員を確保して、サービスの質や食事の質を向上するなど、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者が毎月提出する月報において、職員の勤務状況や人員体制等の現状を把握し、職員からの意見や提案等があれば、本社で検討する場を設けて改善に向けての取り組みを行っています。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、社内の研修だけでなく、管理者や職員のスキルアップに必要な外部研修への参加機会を提供すると共に、社内の研修担当者が各事業所を訪問しての指導や助言を行っています。	外部研修は段階に応じて、認知症介護実践者研修や新人職員研修等に参加の機会を提供している他、プライバシーマークを取得している法人の研修会に管理者や職員が参加し、修了後は復命し、職員間で共有している。内部研修は、外来講師を招いて、介護に直結した内容で学習している。年2回の法人研修への参加や社内の研修担当者が事業所を巡回し、業務の中で指導や助言をして、働きながら学べる様に支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、事業所の管理者や職員が地域の同業者と交流する機会が作れるように、連絡協議会等への参加やネットワーク作りの啓発促進を支援しています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人及び家族と面談を行い、施設見学もできるだけ行ってもらい、安心して入居できるように配慮しています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族との面談を行い、入所に関して家族の要望を聞き取り、実際のサービス提供に取り入れることで、家族にも安心してもらえるように努めています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に本人との面接を行い、状態を確認すると共に、家族、主治医をはじめとする関係機関からの情報を集めて話し合う機会を設けています。相談内容によっては、適切なサービスを紹介するなど、柔軟に対応しています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ生活空間で、一緒に生活する者として、同等の立場で関係を築けるような声かけやケアを心掛け、共に暮らす家族のような関係作りに努めています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に連携を図り、面会の時には家族に利用者の様子を伝え、必要に応じて家族の協力もお願いしています。誕生日等の行事の際は連絡をして、可能な限り参加して頂き、家族と一緒に利用者を支えていく関係作りに努めています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の思い出の品を居室に飾ったり、支障がない限り、地域の行事に参加しています。また、思い出の場所に車で出掛けるなどの支援を行っています。家族の面会は自由に受け入れており、居室で落ち着いて交流できるように配慮しています。	家族の面会や知人の来訪がある。家族の協力を得て、買い物や外食、訪問理美容の利用、文化祭や地域の行事、思い出の場所へのドライブなど馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流を促し、孤立したり居室に閉じこもった生活にならないように支援しています。また、馴染みの関係が保てるように家事などの共同作業やレクリエーション活動、食事を通して、利用者間の良好な関係づくりを支援しています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事情により退去された利用者に対しても、その後のフォローをしっかりと行い、継続的な関わりを持ちながら、必要に応じて家族との連絡を取っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の意向を聞いて、月1回のカンファレンスでなるべく本人の意向、状態に副えるように努めています。また、利用者や家族からの希望があれば、随時相談をして可能な限りの対応を心掛けています。	アセスメントを参考に、利用者の日々の暮らしの中での言葉や様子などから、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、前任のケアマネジャー、主治医などと連絡をとって入居前の生活状況の聞き取りを行い、入居時の状況申告書などで現状を把握できるように努めています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活状況を参考にしながら、入居されてからの小さな変化を職員間で申し伝え、現状の把握に努めています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人、家族、主治医等の意見や希望を反映しつつ、カンファレンスの際に職員の意見も取り入れて作成しています。	毎月1回ケアカンファレンスを行い、利用者、家族、主治医の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、状況に応じて見直しを行い、現状に即した計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、サービス提供記録の介護支援経過に個別記録を記入し、申し送り簿を使い、情報の共有を図り、介護計画の見直しに活かしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の意向を確認しながら、カンファレンス等で話し合い、申し送り時には現状に即した支援やサービスが提供できるように努めています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や福祉委員、ボランティア団体、その他の機関との連携を図りながら、施設内行事などを通して交流の機会を作ると共に、地域行事に参加することで楽しみを持ち、豊かな生活が送れるように支援しています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療が可能な医療機関だけでなく、本人、家族の希望を尊重した上でかかりつけ医を決定し、その方の状態に合った医療を受けることができるように支援しています。また、異常があれば、すぐに往診や通院介助の支援を行っています。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関から月2回の訪問診療、薬剤師による居宅療養管理指導を受ける他、家族の協力を得て、かかりつけ医や歯科、整形外科などの専門医への受診の支援をして適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常があれば、協力医療機関の看護職員に連絡をして、すぐに対応できるようにしています。また、必要に応じて主治医に連絡をして、適切な受診や看護を受けることができるように支援しています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、必ず面会に行って状態の確認を行い、医療機関や家族との連絡を取り合い、情報収集に努め、早期退院につながるような支援をしています。退院時には、病院関係者との情報交換を行い、退院後の生活がスムーズに行えるように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、契約時に本人と家族に説明を行っています。また、相談の場を設けて、可能な限り家族の希望に副えるように話し合いを行っています。看取りを行う場合は、家族の意向を確認した上で、主治医と相談しながらケア計画を立てています。	看取りに関する指針を契約時に家族に説明し、同意書を交わしている。管理者は職員に重度化についての話をし、協力医療機関の協力を得て、看取りの支援をしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	現任研修をはじめ、定期的に応急手当などの訓練を行い、ヒヤリハット報告、事故報告書を活用し、一人一人の状態に応じた事故防止に努め、職員全員が危険認識ができるように努めています。緊急時に備えて、救急蘇生法の講習にも参加し、知識と技術の習得にも努めています。	「ヒヤリハット・苦情・事故シート」を整備し、記録を中心に、全職員で話し合い、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。緊急時対応マニュアルを参考に、誤嚥、骨折、転倒、胃ろう、ヒフ剥離の処置などの勉強会を行うなど、実践力を身につけるように取り組んでいる。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防避難訓練と防災研修を行い、毎月1回、地区民生委員である消防職員OBの協力により、防災リーダー育成研修を行っています。災害時には、近隣地域の人にも協力してもらえるように、緊急連絡網を整備しています。	年2回の消防避難訓練、防災の日の通報訓練に加え、今年度から元消防職員（現民生委員）の協力を得て、夜勤職員を対象に防災リーダー職員研修を毎月実施している。細かく指導を受けることで、職員の防災意識の向上につながっている。地域の住民を含めた緊急連絡網を作成し、協力体制を築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「親しき仲にも礼儀あり」をモットーとして、利用者や家族への言葉遣いには十分配慮しています。また、日頃のケアの中で、少しでも優しい声掛けができるように心掛けています。	利用者一人ひとりの人生の歩みや価値観、生活様式などを大切にし、自尊心を重んじた支援が出来るよう研修を行い、日々のケアの中で言葉かけや対応に気を配っている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意思や希望を大切にして、本人が納得した上で生活を送ることができるように配慮しています。また、相手の目線に立ち、穏やかな声掛けや落ち着いた雰囲気ですること、本人が自己決定しやすい環境作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や気持ちに応じて、臨機応変な対応ができるように配慮しています。また、その時の本人の気持ちを大切に、居心地の良いサービス提供に努めています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴、整容等の支援を行い、身体の清潔保持を行っています。本人の好みを尊重し、衣類などは本人の希望に沿う形で用意しています。月に一度、訪問美容師による散髪の手を設けて、本人の好みの髪型ができるように支援しています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個人の嗜好を確認し、献立に反映できるようにしています。時には、利用者のその日の体調に合わせて、食事の準備や後片付けなど、できる範囲で取り組んでもらうように支援しています。	調理担当職員を2名確保し、三食とも事業所で調理し、利用者の状況に合わせて形状に配慮して、提供している。ピーラを使っての皮むき、豆の筋取りなどの下ごしらえ、おはぎやおにぎりづくり、下膳など利用者は出来ることを職員と一緒にやっている。たこ焼きやホットケーキ、ゼリーなどのおやつづくり、季節に応じたそうめん流しやバーベキュー、誕生日は希望メニューを取り入れて家族にも参加を呼びかけるなど工夫して、食事を楽しむことができる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事及び水分補給量を記録することで、本人の状態変化に早期に気づけるように注意しています。食事内容も個々の状態や能力に応じて工夫したり、摂取量が少ない時には献立や形態を工夫して摂取量が増えるように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝前に義歯洗浄及び歯磨きを促し、自分では困難な方には、介助により口腔ケアを行うことで、口腔内の清潔保持に努めています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の排泄を記録しながら、個々の排泄パターンを把握し、必要に応じた声掛けや誘導を行っています。尿失禁、便失禁がある利用者には、一定間隔でのトイレ誘導を行い、トイレでの排泄習慣づくりを支援しています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな場合でも、すぐに下剤を服用してもらうのではなく、水分摂取をしっかりと行い、体操やレクリエーション、歩行練習などの運動を増やすことで、自然排便につながるように促しています。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間の入浴は、職員の人数的に対応が難しいですが、日中の時間帯であれば、毎日の入浴も可能です。本人の拒否がある時は、部分浴や清拭を行い、清潔保持に努めています。	週3日、午後からゆっくり入浴を楽しめるよう支援をしている。利用者の希望があれば毎日の入浴も可能である。利用者の体調に合わせて、全身清拭、部分浴などの支援を行い、足浴で白癬菌感染の治療や血行促進、気分転換を目指した支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設のスケジュールだけにとらわれず、個人の生活リズムに合わせてながら、ゆっくりと休息できるように支援しています。寝具類は週1回のペース、または汚染時に随時洗濯して、常に清潔を保ち、気持ちよく眠れるように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は可能な限り一包化してもらい、誤薬を防いでいます。また、研修で、安全な服薬方法について学習して、適切な服薬介助が行えるようにしています。副作用等の症状が現れた場合は、協力医療機関等へ連絡して指示を受けています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力と本人、家族の意向を確認して、本人が行えることをみつけて、日常生活における役割が持てるように支援しています。役割を持てない方には、職員と一緒に行うことで少しでも達成感が持てるように支援しています。	粘土玩具、ぬり絵、季節のちぎり絵、干支の貼り絵、オセロ、カルタ、盆栽、お茶を立てる、水やり、詩を書く、唱歌、しりとり、雑巾縫い、編み物、洗濯物たたみ、ビデオ鑑賞、クリスマスツリーの飾りつけ、ラジオ体操、口腔体操、ストレッチ体操、ボールころがし、下膳など活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って近所に散歩に出たり、車で出掛けたりと、日常的に外出する機会が増えるように支援しています。年間行事として、初詣、花見、菖蒲園見学、紅葉狩り等、季節に応じた外出支援を行っています。	一人ひとりの希望に沿って、散歩やドライブに出かけている。家族の協力を得て墓参り、法事への出席、外食、外出などに出かけている。初詣、地域の行事、花見(つつじ、菖蒲、紅葉)など季節に応じた外出支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができない利用者が大半ですが、本人から要望があれば、家族と相談して買い物に出掛けたり、欲しい物を購入できる機会を作ったりと、できる限り本人の希望に副えるように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、家族と電話で話せるように支援しています。年賀状や暑中見舞いなどを出したいとの希望があれば、職員が手伝うことで希望が叶うようにしています。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間については、毎日清掃を行い、清潔を保っています。観葉植物の手入れや季節感のある物を利用者と共に作って飾ったりしています。食事の時間には音楽を流し、天気の良い日には天窓を開けて、自然の風を入れることで心地よく過ごして頂けるように配慮しています。	椅子やテーブルは、利用者の状況や行事に応じて配置換えがをし、観葉植物を置いて、居場所づくりの工夫をしている。キッチンから調理の音や匂いがし、生活感がある。天気の良い日は天窓を開けて、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間内に、一人一人の居場所を設けてはいませんが、必要であれば、衝立で仕切ったり、ソファや椅子の配置を変えることで、少人数でくつろげる空間を作ることができます。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や他者に危害が及ぶ物でなければ、特に持ち物の制限はなく、本人の思い出の品、使い慣れた物を持ち込んで頂くことで、住み慣れた環境に近い生活を送ることができるよう配慮しています。	ソファ、小物ダンス、衣装ケース、布団、エアーマット、ぬいぐるみ人形、鏡など好みの物を持ち込み、壁面には利用者の思い出のある写真を貼って、居心地よく生活できるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全な環境の中で生活できるように、屋内各所に手すりが設置してあります。また、建物内で迷わないように、居室の名札、トイレ、浴室等の表示を行い、利用者の不安や失敗を防げるように配慮しています。		

2. 目標達成計画

事業所名 サンキ・ウエルビィグループホーム岩国

作成日： 平成 26年 3月 1日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	27	介護職員個々のアセスメント力が弱いいため、利用者がより良く暮らすための気づきが少なく、ケアの質を高めるための意見やアイデアがあまり出ていない。	利用者の生活の質が上がり、笑顔が増えて楽しいと感じる生活を送るためのケアを検討する。	日々のケアの中での利用者に対する気づきを増やして介護記録に残す。気づきの内容をスタッフ間で話し合い、利用者が望む生活に近づけるための化ケア目標を立てて実践する。	12ヶ月
2	35	高齢の利用者が多く、急変のリスクが高い中での介護を行っているが、スタッフの危機意識が不十分であり、事故防止に対する取り組みや事故発生時の備えが必要である。	高齢者の生理機能や病態の変化について理解し、異常の早期発見ができるようにする。事故発生時に冷静に判断し、適切な対応ができるようにする。	内部研修において、高齢者の生理機能及び病態の変化について学習する機会を増やす。転倒、誤嚥、窒息等の日常的に発生しやすい事故の処理方法について、定期的に訓練を行う。	12ヶ月
3	11	利用者家族と介護スタッフとのコミュニケーション不足が原因で、家族からの不満や苦情が出ることが時々ある。	利用者家族が面会に来られた際に介護スタッフからのコミュニケーションを積極的に図り、ご家族との信頼関係を深める。	介護スタッフの全員が、外来者への挨拶、マナーに注意して、丁寧な対応を心掛ける。利用者の日々の様子やホームの取り組みについての情報提供をご家族に対してこまめに行う。	12ヶ月
4	36	地域の方の協力を得て、定期的に防災リーダー育成研修を行っているが、避難訓練における実践力が不足している。	非常災害時に備えて、防災リーダーの力が十分発揮できるようにする。防災リーダーの育成を通して、各部署間の協力体制を高める。	日常的に防災意識を高めるために、防災リーダーの研修を継続して行う。火災だけでなく、地震や風水害等を想定した避難訓練を定期的実施する。	12ヶ月
5	14	介護スタッフの離職率が高く、育成の途中で辞めてしまう職員が多いために、計画的にケアの質を高めることができていない。	介護スタッフが定着して勤務できるように、働きやすい職場環境を整える。スタッフのモチベーションが下がらないように、スキルアップの機会を増やす。	管理者やリーダーが介護スタッフとのコミュニケーションを増やして、仕事に対する意見を十分に聞きとる。社外研修等への参加機会を促して、介護スタッフの自己啓発意欲を高める。	12ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。